

埋文センターニュース

第8号

1998.10.1

津市埋蔵文化財センター



発掘調査中の小石室

いしきやま

石切山遺跡第2次発掘調査始まる！

平成10年9月16日から津市高野尾町字石切山・字南出で、石切山遺跡の第2次発掘調査が始まりました。これまでに縄文時代とみられる^{おと}陥し穴、古墳時代後期の小石室古墳、中世の^{ほったてばしらたてもの}掘立柱建物・土坑・井戸・溝など多くの^{いこう}遺構を検出しました。また、縄文土器や古墳時代の須恵器・^{へきぎよく}碧玉製の^{くだたま}管玉、中世の^{せいじ}青磁皿・^{やまぢやわん}山茶碗・^{はじき}土師器の^{はがま}羽釜などが出土しました。

これまでの調査結果から、注目すべき遺構として小石室があげられます。小石室は横穴式石室の影響を受けて造られたもので、近辺

での類例は、安濃町では^{ひらたこふんぐん}平田古墳群をはじめいくつかのものが見られますが、津市内では現在までに大里川北町の川北遺跡でしか発見されていません。石切山遺跡と川北遺跡はいずれも、志登茂川を望む左岸の台地や丘陵上にある遺跡で、同じような古墳文化を持つ地域であったことがわかります。

調査はまだ途中ですが、現在の私たちの生活の基礎を築きあげてきた人々が残してくれた貴重な遺跡から、いかに多くのことが学べるか、今後の調査が期待されます。（池端）

遺跡紹介⑦ 蔵田遺跡

蔵田遺跡は津市の西部に広がる平野のほぼ中央にあります。この平野も一見平坦なようですが、よく見ると細かな起伏があり、遺跡は居住に適した周囲よりも若干高い部分に位置しています。この遺跡は、平成3年メッセウィングみえの建設、そして平成6～8年に中勢道路の建設に伴って発掘調査が行われ、弥生時代から平安時代にかけて断続的に集落が営まれていたことが分かっています。

まず、注目されるのが弥生時代の川に設けられた幅6mほどの堰です。その構造は川を横断する横木を渡し、その両端を杭で固定し、さらに横木の前面に約80本の矢板が打ち込まれていました。この堰で水位を上げ東側に導水していたと思われ、その先には当時の水田があったと考えられます。

また、古墳時代の集落の一角に直径約2m、

深さ約0.3mの穴があり、そこからは樽形甕^{はそう}と呼ばれる須恵器をはじめ、完全な形に復元できる土器がまとまって出土しています。樽形甕は今のところ県内では7例しか知られておらず、古墳からの出土例が多い珍しい土器です。この穴からは焼け焦げた木も一緒に出土していることから、この付近で火を使った何らかの祭祀を行い、そこで使った土器などをまとめて捨てたものと考えられています。

ところで、遺跡とは直接関係ありませんが、地震の跡が2ヵ所で見つかっています。一つは地震の振動で地中が液状化し地層が変形した様子、そしてもう一つは液状化した一部が地面を突き破っている「噴砂」と呼ばれるものです。残念ながらいずれも地震の発生した時期は分かりませんが、地震の恐さを改めて感じさせるものです。 (米山)



蔵田遺跡位置図 (1 : 50,000)



堰



樽形甕



噴砂

遺物紹介⑦

酒井萬馬氏旧蔵の考古資料

今回は、平成元年度に津市に寄贈いただいた酒井萬馬氏旧蔵の考古資料を紹介します。

酒井萬馬氏は、第11代津市長（昭和22年～26年）として戦後の津市の復興につとめた人物です。晩年は郷里の一志郡白山町にもどられて、郷土史の研究に力を注がれました。

寄贈いただいた考古資料は、津市・久居市・一志郡内の遺跡を中心に、整理箱にして約200箱にも及ぶ膨大なものですが、そのほとんどに遺跡名と採集年月日が記してあり、氏自ら幾度も遺跡に足を運ばれて遺物を採集し、丹念に整理されたものであることがわかります。

また、資料は縄文土器から中世の山茶碗、石鏃などのような石製品と多岐にわたり、これらのなかには『一志郡史』にも紹介された貴重な資料も含まれています。

このように寄贈いただいた資料は、津市埋蔵文化財センターで大切に保管し、地域の歴史・文化の調査、研究に役立てていきたいと考えていますので、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。（藤田）



善応寺



岩井戸



和遅野



愛宕山西方三〇〇米丘陵上



円光寺跡



小丹

注 記	所 在 地	主な採集遺物
町屋	津市築真町屋町	弥生土器、土師器、須恵器、土鏃等
小丹	津市江戸橋	須恵器、山茶碗等
愛宕山西方三〇〇米丘陵上	津市（蔵音寺町付近）	須恵器
半田	津市大字半田	縄文土器、須恵器等
羽野善心寺	久居市（庄田町善心寺付近）	縄文土器、弥生土器、石鏃、耳環等
木造	久居市木造町	弥生土器、須恵器、石鏃等
牧古墳	久居市牧町	耳環、ガラス小玉、須恵器等
和遅野・南和遅野	一志郡白山町二本木	弥生土器、石鏃、菅玉、須恵器、銅鏡等
岩井戸	一志郡白山町二本木	縄文土器、弥生土器、石鏃、円面鏡等
亀ヶ広	一志郡白山町二本木	縄文土器、弥生土器、石鏃、石斧等
市河原	一志郡白山町二本木	縄文土器、弥生土器、石鏃、円面鏡等
大谷広	一志郡白山町二本木	弥生土器、石鏃等
川口里木	一志郡白山町川口	須恵器
大角	一志郡白山町大角	縄文土器、石鏃、石鏃等
高野	一志郡一志町高野	須恵器、鉄製品等
円光寺跡	一志郡鶴野町下之庄	軒丸瓦、軒平瓦
鶴野種畜場前	一志郡鶴野町算所	軒丸瓦
天花寺	一志郡鶴野町天花寺	平瓦等
一志郡農業試験場	一志郡鶴野町	須恵器、土師器等
中原村算所	一志郡鶴野町算所	須恵器、円筒埴輪等
亀山南野村	亀山市南野町	縄文土器、石鏃等
能楽野	亀山市能楽野町	縄文土器、弥生土器、須恵器等
志摩郡安乗村字阿瀬	志摩郡阿児町安乗字阿瀬	須恵器
名張	名張市	須恵器、円筒埴輪等
夏見昌福寺	名張市夏見	平瓦等

主な遺物採集地

埋蔵文化財「出張講座」を実施！

当センターでは、本年度から学校教育現場と連携した事業のひとつとして、文化財に関する「出張講座」に取り組んでいます。

今年度は、大里小学校6年生を対象とした1時間程度の講座を開きました。

津市大里地区は、市内でも遺跡が濃密に分布する地域であり、近年の国道バイパス建設や圃場整備に先立ち、多くの発掘調査が行われている地域でもあります。地域の歴史を知るうえで、こうした遺跡の様子や出土した遺物は格好の素材となるものでしょう。

今回は中蔦遺跡や川北城跡の土器や陶器を実際に手に取り、その感触を確かめ、破片で出土したものを接合する作業に挑戦しました。

中蔦遺跡は学校の敷地内であり、出土した土器が体育館建設時に出土したものと知って、より身近に感じられたようです。

また、センターの業務と埋蔵文化財の発掘調査について簡単にまとめたビデオを見て、「どうしてそこに遺跡があるとわかるの？」「鎌倉時代の遺跡とわかるのはなぜ？」などの最初に抱いていた素朴な疑問も、少し理解してもらったように思います。

今回、初の試みの「出張講座」でしたが、子どもたちに地域の歴史に触れる機会を提供するため、当センターでは、今後もこうした普及活動を継続していきたいと考えています。
(中村)

センター日誌抄

平成10年

4月16日 《見学》 神戸小学校遠足 99名
4月20日 《見学》 「市政教室」見学 67名
・21日
4月20日 《調査》 津城跡試掘調査
～21日
4月28日 《会議》 県埋文担当者会議に出席
5月7日 《見学》 片田小学校遠足 91名
5月21日 《会議》 全国公立埋文協総会に出席
～22日
6月3日 《見学》 教育厚生委員視察 20名
《会議》 県埋文連絡調整会議に出席

6月4日 《普及》 大里小学校へ出張講座
6月8日 《調査》 北浦遺跡試掘調査
～11日
7月22日 《会議》 県埋文担当者会議に出席
7月31日 《調査》 阿漕浦遺跡試掘調査
8月22日 《展覧会》 安濃津物語特別展覧会
～30日
9月2日 《見学》 北郊地区民生委員 30名
9月16日 《見学》 「市政教室」見学 47名
・17日
9月16日 《調査》 石切山遺跡調査開始

《編集後記》

今年度は、所長をはじめ職員の異動が多く、センターの顔触れも新たになりました。上半期の調査は少なかったものの、下半期には調査が本格化します。今号は遺跡・遺物紹介が中心ですが、次号ではより詳しい調査の様子をお伝えできると思います。
(中)

発行日：1998.10.1

編集・発行：津市埋蔵文化財センター

〒514-0058

三重県津市安東町1225

TEL 059-229-0210

FAX 059-229-4601

印刷：森田印刷株式会社